

平成20年度 学校評価報告(中学校)

[京丹後市立峰山中学校]

学校経営方針 (中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
1 学力の充実向上	2 心の教育の推進	3 不登校の未然防止と解消	4 特別支援教育の推進
5 開かれた学校づくり			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の徹底による学力の充実向上 課題克服に向けて創意ある教育活動の展開 指導方法の工夫改善、計画的な研修の実施 基礎基本の定着を図る取組を実施 授業規律の確立 評価、評定の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携 (授業参観、出前授業、体験授業、学力・不登校に係る会議等) 全教職員による校内授業研究会の実施 CRT、学力診断テスト、学力学習状況調査等の分析 京都式少人数授業の実施 (英語・数学)、少人数学級の実施 休業中の補習授業 学期一回の補充学習 (英語、数学) 週末課題の提出 定期的な授業アンケートによる実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校と中学校の課題を共有することで、系統的な指導が明確になった。また、中学校への円滑な接続が出来るようになった。 ○校内授業研究会を全教職員が行うことで授業改善への実践が前進した。特に視点を明確にしたグループでの協議は成果があった。 ○習熟の程度に応じた授業 (数学100%、英語50%) 特に3年生の英語は70%実施することで学力が定着に繋がった。 ○客観的なテストや調査の分析に基づいて、補習学習や補充学習を実施することで一定学力の定着を図ることが出来た。 △生徒の意欲を喚起する指導方法の工夫改善 △学力診断テストの正答率向上 (課題の克服) △低学力生徒への手立て △家庭学習の定着
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の向上、人権意識の高揚 生徒の内面に迫る指導の重視 情報の共有化、組織的な対応で問題事象を減少 家庭や関係諸機関等との緻密な連携 不登校の未然防止と解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間との関連させた学級・全校指導 ・定期的なアンケートによる実態調査と学級指導 (人権学習) ・生徒の実態把握と組織的な対応 (生指部会の定例化、毎日の学年会、一週間に一回の状況交流) ・定期的な全校集会 (生徒会の主体的な取組、教師の講話) ・PTAとの連携を図った交通安全指導、ニコニコカーの活用 ・心の教育推進プロジェクトの機能化 ・PTAへの積極的な情報提供 ・教育相談部を中心とした組織的な指導 ・SC、心の教室相談員、関係機関、保護者との連携の強化 ・小学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識や人権意識の向上に向けた指導と関連させた内容を道徳の時間にタイムリーに行うことで、自分自身を振り返ることが出来た。 ○実態調査を定期的に行うことで早期に対応することが出来、大きな問題に発展することが未然に防げた。 ○生徒指導部を中心とした指導体制で組織的な対応で問題事象が早期に解決出来た。 ○不登校生徒の70%が好転した。 △規範意識、人権意識の醸成 △不登校の未然防止・解消 △家庭・地域との一層の連携

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の健康課題の把握 組織的、計画的、継続的な保健教育 安全な生活を営む正しい判断力を養うための安全教育の推進 危機管理マニュアルの検証と改善 食育指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席黑板による生徒の出欠の確認 性教育、薬物乱用教室（キャラバンカー）の系統的な指導 校内、校外の安全指導（学級指導）、交通安全指導 避難訓練（不審者、火災、地震）の実施 危機管理マニュアルの見直しと改善 教科との関連を図った食育指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代的健康課題に対応する保健教育を系統的に実施することが出来た。 ○不審者に対する避難訓練は、教師の研修や生徒への講話を実施することで意識が高まった。 ○外部の講師を活用した授業が実施できた。（丹後のバラ寿司、骨密度） △保健、安全計画の策定 △校内・校外安全指導の徹底 △危機管理マニュアルの見直しと改善
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的・系統的なキャリア教育の推進 進路相談室等を活用した情報提供と進路相談 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた系統的な進路指導 啓発的経験をさせる活動 計画的な進路相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的・系統的・計画的な進路指導が各学年ともに実施出来た。 ○1年福祉体験、2年職場体験、3年体験セミナーなど啓発的な体験活動が定着してきた。 ○二者、三者面談を定期的に実施することで、進路に対する生徒の意識が高まった。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターを中心とした校内体制の確立 個別の指導計画に基づいた個に応じた指導の推進 各学校や関係諸機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする生徒の状況把握 別室の生徒への指導 個別の指導計画の作成・評価 特別支援教育の理解を深める研修 校内委員会の定例化 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の状況に基づいた指導計画を策定することが出来た。 ○他の機関との連携を図ることで、指導や対応の仕方等について研修を深めることが出来た。 △通常学級に在籍する生徒の具体的な支援 △校内委員会の定例化
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域への積極的な情報発信 地域への奉仕活動 学校評価結果を地域や保護者へ公開 家庭の教育力を醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開日の設定（年間3回） 学校行事を地域へ積極的に開放（合唱祭、体育祭等） 地域連携を図った活動（クリーンキャンペーン、職場体験活動、福祉体験活動） 評議委員、民生児童委員との定期的な懇談会の実施 学校便りの地域への配布 家庭との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事には500名の保護者・地域の人たちの参加があった。 ○峰山町全域にわたるクリーンキャンペーンを実施することが出来た。（年間2回） ○学校評議委員、民生児童委員との定期的な懇談会で学校の情報を積極的に発信することが出来た。 △地域支援による教育活動 △学校の評価結果を積極的に公開 △生活習慣、家庭学習、規範意識など家庭の協力を得るための取組や工夫
次年度に向けた改善の方向性	<p>生徒は全体的に落ち着いており、大部分の生徒は学習や部活動に真面目に取り組んでいる。特に最近は生活環境の変化に伴うコミュニケーション不足、家庭環境からくる精神的に不安定な生徒が増加傾向になっている。また、規範意識や人権意識の崩れと見られる事象も日々発生している。このことは家庭学習も含めて学力の定着にも大きな影響を与えている。保護者・生徒のアンケート（自己評価資料）においてもこのような課題が指摘もされている。このような状況を踏まえ、学力の充実向上、不登校の未然防止・解消、規範意識の醸成は本校の大きな課題である。道徳教育を基盤に据えた心の教育を推進していく必要がある。</p>		<p>21年度の改善目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題を横断的に捉え、組織としての取組を強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心の教育推進プロジェクト・学力向上プロジェクト (2) 客観的な資料、評価の分析と具体的な指導 2 教職員の資質能力の向上（授業で勝負・生徒の心に響く指導） 3 家庭や地域との一層の連携（情報発信、行動連携）

平成20年度 学校評価報告(中学校)

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>1 生涯学習の基盤として、豊かな心とたくましく生きる力の育成をめざし、基礎基本を徹底し、確かな学力を付ける教育活動の充実を図る。</p> <p>2 教養と社会対応力、思いやりの心を持つ視野の広い生徒を育成するため、学校内外での体験活動と生徒指導・教育相談を充実させる。</p> <p>3 体育・スポーツ活動を重視し、挑戦することを通して向上心、忍耐力、協調性等の育成を図る。</p> <p>4 地域・保護者連携を高め、開かれた教育活動を通して信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>「文武両道」を伝統とする学校として、心技体の調和のとれた生徒育成をめざし教育活動を進めた。</p> <p>○全体指導を重視し、規律を大切にする中で安定した学校生活につながった。</p> <p>○学力充実に向けて各教科中心の取組や協同学習・「学集会」・補充指導等を取り組み、学力向上につながった。</p> <p>○開かれた学校、発信する学校として取組・活動を進め、成果につながった。</p> <p>△学力について教科を越えた組織的な研究・取組が必要である。</p> <p>△不登校問題への取組を工夫し進めたが、数的な改善につながらなかった。</p> <p>△部活動での生徒指導充実が求められる。</p>	<p style="text-align: center;">～ 文武両道の大宮中学校 ～</p> <p>☆ 基礎学力の定着、国語力の育成、意欲を引き出す授業を通して学力向上をめざす。</p> <p>☆ ふれあい、話し込み、面談等を通して、友を支え、規律あるマナー良い生徒を育てる。</p> <p>☆ 道徳教育、体験活動、学校行事等を通して、たくましく豊かな心を育てる。</p> <p>☆ 日々の部活指導を大切にし、生徒の達成感、充実感を高め、技量向上につなげる。</p> <p style="text-align: center;">～平成20年度教育活動への信頼度～ 《教育活動評価アンケートより》</p> <p style="text-align: center;">生徒評価・・・77% (6%アップ) 保護者評価・・・80% (2%アップ)</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>○指導力量、授業改善につながる研修の充実と意欲的な授業公開に努める。</p> <p>○生徒の学力を高めるため組織的、意欲的な活動を展開する。</p> <p>○授業改善に向けた計画的な活動を展開する。</p> <p>《教科共通目標の観点》</p> <p>①開かれた授業、基本の徹底</p> <p>②規律ある意欲を引き出す授業</p> <p>③国語力、表現力の育成</p>	<p>☆「見せる、見せられる」教育活動を積極的に進め、学校教育の充実につなげる。</p> <p>☆目標を明確にした授業公開を増やし、評価を受ける中で授業改善を進める。</p> <p>☆授業評価アンケート(2回)を実施し、分析を通して傾向を提示し、授業並びに授業姿勢改善につなげる。</p> <p>□学習指導の目標を意識した授業研究を計画的に実施し、授業改善を進める。(各教科1～2回授業研、全体授業研3回実施)</p> <p>□各種学力テスト等を分析、検討し、各教科に指導の方向性を示す。</p> <p>□協同学習(終SH後30分間×12日間×3回)、「学集会」(休業中の学習活動)、補充指導等を通して学習状況を把握し、適切な提起につなげる。</p>	<p>○年間3回の休日参観日を含む10回の参観日を設定し、参観者を増やすために様々な工夫も進めた。年間15～600名の参観者</p> <p>○授業評価、教育活動評価等 アンケートを実施し、教育活動の改善と成果につなげた。</p> <p>生徒授業評価・・・「授業の分かりやすさ、意欲的な学習」2～3%アップ(学期対比)</p> <p>○授業以外の学習指導も積極的に進め、協働意識の下で基礎学力定着につながっている。</p> <p>△家庭学習の定着に向けて学校、家庭の連携の充実が必要である。</p>
進路指導	<p>○進路実現をめざし、各学年で実態に合った効果的な進路学習、指導を行う。</p> <p>○進路に関わる保護者連携、情報発信を各学年で丁寧に行う。</p>	<p>☆各学年で進路情報の提供を丁寧に行うと共に、12月に全学年で三者面談を実施し、指導に生かす。</p> <p>□目的意識のある進路選択ができるよう全学年で丁寧な情報提供を進める。</p> <p>□将来を見通した系統的で体験的な進路学習の充実を進める。</p>	<p>○新規で全学年三者面談を実施し、進路・学習・生活全般を考えるよい機会となった。</p> <p>○体験学習の発表会を休日参観に企画できた。</p> <p>○状況を踏まえた3年進路指導の工夫と充実</p> <p>△1、2年生の進路学習の充実を進める。</p>

生徒指導 教育相談	<p>○支え合い、指摘し合える生徒を育てるための緻密な学級経営</p> <p>○生徒の内面理解に努めると共に問題事象や現状の背景分析と家庭、関係諸機関等との連携を丁寧に進める。</p> <p>○報告・連絡・相談による早期発見、早期対応(個別指導)の充実を進める。</p> <p>○スクールカウンセラー、教育相談担当者との連携充実。</p>	<p>☆ふれあい、話し込みを大切にし、事象対応は「スピード・丁寧・誠実」を意識し、動きを止めない指導を進める。</p> <p>☆ルール、マナーを守り、挨拶のできる生徒を育てる。</p> <p>☆定期的にアンケート等を実施し、生徒の悩みや相談について把握し、指導・支援を行う。</p> <p>□支え合いと他者へ指摘できる態度の育成など学級経営重視を軸とし、反社会的問題事象の減少を一層進める。</p> <p>□支え合う心の育成など学級経営重視を軸とし、不登校生徒の減少に努める。</p> <p>□家庭訪問など保護者との接点を大切にし、専門家との連携を通して、各生徒の早期改善をめざす。</p>	<p>○早期発見、対応を進め、又生徒の内面理解にも努め、反社会的事象は少ない状況にある。</p> <p>○全体指導を重視し、規律ある学校生活につなげた。</p> <p>○不登校問題の解決改善に向けて、手法の改善や様々な工夫を進め成果にもつなげた。</p> <p>△生徒指導、教育相談に関わる学級経営力の充実を進める。</p> <p>△不登校生徒の数的状況が停滞し、改善に向けた一層の工夫と努力が必要である。</p>
研修・研究	<p>○研修研究の成果を踏まえ、「教師力」向上教育実践力継承事業を中心に協働精神のもと組織的、計画的に進める。</p>	<p>□各活動・取組は協働意識のもと、人材育成の視点も大切に、具体的、計画的に展開する。</p> <p>□教師力向上・実践力継承につながる研究活動を展開する。 (スキルアップ・5アクション)</p> <p>①授業研究・・全員参加研究会(3回)、教科別研究会等の実施</p> <p>②学年単位の学級経営力、生徒指導力等の育成活動</p> <p>③若手教員育成研修・・教師力基盤育成のための校内研修の実施</p> <p>④校外研究会等への積極的な参加と自己啓発</p> <p>⑤協働意識のもと、組織的な初任者研修</p>	<p>○教師力向上を進める事業研究はスキルアップ・5アクションを中心に実施し、授業改善や人材育成への意識高揚につながった。</p> <p>○活動を通じて学校教育の成果と課題の明確化 研究活動全体・・教員による評価 86% 保護者の教員協働意識評価 72%(6%アップ)</p> <p>△事業研究の成果を整理し、人材育成に向けてのシステムの工夫充実を進める。</p> <p>△日々の教育実践の中での研究活動の工夫充実</p>
健康安全	<p>○健康を第一に考え、健康と安全に関わる指導、訓練を計画的に行い徹底する。</p> <p>○生徒の安全を守るための関係諸機関との連携を進める。</p>	<p>☆火災・不審者・地震等の訓練並びに情報化社会への適正な対応力を高める啓発・指導を通して、危機対応力を高める。</p> <p>☆PTA活動と連携し交通安全等生徒の安全に関わる取組を展開する。</p> <p>□安全につながる基本的生活習慣の充実を進めると共に、生徒会・委員会活動と連携した取組、活動を展開する。</p> <p>□保健体育科と連携した性教育や保健指導等の充実を進める。</p>	<p>○安全につながる指導・訓練を保健体育科・生徒指導部とも連携して計画的に進めた。</p> <p>○PTA活動(「ここにこカー」活用21日間)と連携した交通、登下校の安全指導ができた。</p> <p>△情報社会に対応した安全指導の充実を進める</p> <p>△心身の健康管理のため食育を推進する。</p>
保護者・地域との連携	<p>信頼される学校づくり</p> <p>○学校開放と教育内容の充実を進める。</p> <p>○積極的な広報活動に努め、地域貢献を進める。</p> <p>○評価活動を進め、教育充実につなげる。</p>	<p>☆教育活動に対する外部評価、各アンケートを行い、次年度に生かす。</p> <p>☆教育活動の公開、発信を心がけ、地域連携の教育を推進する。</p> <p>☆ホームページ更新を定期的に行うと共に、利用しやすさを追求する。</p> <p>□ホームページ更新のできる教職員を複数養成する。</p> <p>□民生児童委員、保護司会など関係団体との連携を大切にし、情報交流を進める。</p>	<p>○教育評価アンケート(PTA・生徒)を実施、公表し、成果と課題は次年度に生かしている。</p> <p>○情報発信を心がけ、ホームページ更新は積極的に実施した。(PTA閲覧率37%)</p> <p>*○外部評価を試行実施し、本格実施に備えた。</p> <p>△地域と連携した教育活動の質的向上を進める</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>文武両道の伝統を継承する中で、学力向上につながる授業改善は「分かりやすい授業、意欲のでる授業」をめざし、具体的に生徒の変容につなげなければならない。また、不登校生徒問題の現状改善を進めるため、危機意識を持ち多様な活動を展開し結果が求められる。そのためには各教職員が目標、活動の方向性を一層明確にし、指導力を高める必要がある。また、課題改善に向けて小中連携の充実も求められるし、学校支援地域本部事業も活用し、地域社会をより重視する学校教育の質的改善も進めなければならない。</p>		<p>(次年度の重点目標の方向性)</p> <p>1 支え励まし合う学校・学級づくり</p> <p>2 分かりやすい授業を通じた学力充実、向上</p> <p>3 生徒会活動の活性化と部活動の重視継続</p> <p>4 小中連携の充実と学校支援地域本部事業活用</p>
<p>* 外部評価試行は学校評議員・PTA本部役員に依頼し、6月に評価項目提示、2月から評価依頼・分析等を行い、次年度の本格実施に生かす。</p> <p>* 「具体的方策」等の☆印・強調文字は学校・外部評価者の共通評価項目で、□印は学校内評価項目である。☆・□印は紙面の関係で一部省略している。</p>			

平成 20 年度 学校評価報告(中学校)

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学び、確かな学力を身につける。 ・自尊感情を尊び、豊かな心を育てる。 ・心身を鍛え、克己心を養う。 ・地域に開かれた学校作りを進める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒を減少させることができた。(H18:15 人→H19:5 人) ・好ましい人間関係づくりが進み、相互に良さを認め合える気運が生まれてきた。 ・校種間・関係団体との会議が充実し連携が進んだ。 	《規律の確立》 「人の話を聴く」 「時間を守る」
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・創意ある積極的な教育活動の推進 ・授業改善 ・授業規律の確立 ・主体的に学ぶ力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級(1年)、少人数授業(国・数・英)の実施、選択教科(美術・家庭)における社会人講師の導入 ・学力実態分析、指導方法の交流、年5回の校内授業研究会の実施 ・学力充実向上部、生徒指導部を中心とした授業ルール徹底 ・週1回定例の「気づき」の発行による授業実態の共通理解 ・特別活動部による授業規律の確立を目指した生徒の主体的な取組 ・週末課題、ドリル学習、教え合い学習の実施 	△学力の二極化(特に数学が顕著)と下位層(生徒指導上の課題を含む)への具体的な手立ての工夫が必要である。 ○ベル着が定着し、全体として落ち着いて授業を行えるようになった。 △前年度よりさらに授業規律は向上しているが、授業によっては、集中して人の話を聴くことにはまだ課題がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との信頼関係づくり ・教師の指導力の向上 ・好ましい人間関係の育成 ・生徒理解と未然防止 ・相談活動の充実と家庭との連携強化 ・別室指導の機能を生かした指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、業間指導等、生徒との接点やつながりの重視 ・指導の統一、問題事象等の正確な情報収集と教職員の共通理解、複数指導等の組織的な対応(週1回定例の生徒指導部会及び教育相談部会の実施、週1回定例の「気づき」の発行、保健室を中心とした教育相談活動及び情報収集) ・異年齢集団による取組の実施(全校ボランティア活動、体育祭、合唱祭における異年齢集団での活動の工夫) ・全教職員による別室指導と自教室復帰に向けての指導 ・小中連携・関係機関(病院、福祉事務所、巡回相談、警察等)との連携 	○全校集会が整然とできるようになり、全体の規範意識(頭髪、制服、通学方法、時間厳守等)が着実に向上してきている。 △服装の着こなしなど外部の評価に耐えられる価値観を育成する。 ○好ましい人間関係づくりが進み、相互に良さを認め合えるようになった。 ○不登校出現率を低位にとどめることができた。(H20年度、6名、1.5%)

健康安全	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進のための体制づくり 健康教育、性教育の系統的な指導 安全に対する意識の高揚 生徒会保体委員会の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康観察、保健室の来室状況の把握、養護教諭と連携した組織的な指導、保健だよりの発行 薬物指導、性教育等の系統的・計画的な実施 毎日の登下校の安全指導の励行と交通安全教室の実施（1年） 生徒会保体委員会の活動の充実 	<p>○問題事象の早期解決や不登校出現の未然防止につなげることができた。</p> <p>○ヘルメット着用が昨年度より定着し、登下校中の交通事故発生も減少した。</p> <p>△外部からの不審者対応等、危機管理意識の高揚を図るための取組を工夫しなければならない。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、望ましい職業感の育成 進路情報の周知と啓発的な体験活動の充実 進路相談の充実 進路希望の実現を目指す取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習（各学年）、職場体験（2年生）の実施 生徒対象の講話学習（職業安定所職員、高等学校教員）、保護者対象の進学説明会の実施（6月：3年、10月：全学年対象） 高校が実施する体験学習や体験セミナーへの積極的参加 全学年三者面談の実施（11月）二者面談（必要に応じて） 補充学習の実施（3年2学期以降延長ドリル、放課後の学習会） 	<p>○様々な啓発的体験活動を通して、自分を見つめさせ、目的意識を高めることができた。</p> <p>○進路情報を適切に保護者へ周知し、保護者と連携して進路指導を進めることができた。</p> <p>△基礎的な学力を身につけさせるために、早期より具体的な手立てを講じる必要がある。</p>
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> 本校の課題に応じた研修の実施 指導力の向上を図る校内授業研究会の実施 センター研修への計画的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 年5回のテーマを設定した授業研究会と全員による相互評価 各領域における計画的な校内研修会の実施 生徒指導部、学力充実向上部を中心とした授業規律の確立を目指した研修の実施 初任者研修の計画的な実施 学校評価と教職員評価の連動と有効活用 	<p>○校内授業研究会を開催することで、互いに学び合い、課題を明らかにすることができた。</p> <p>△授業規律の確立を基盤とした授業改善が、まだ個々の教員に依存しており、組織的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>△客観的データ等を活用し、学校評価及び教職員評価をさらにわかりやすく改善していく。</p>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれた学校づくり 説明責任 双方向の情報交流を生かした学校運営 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問などの保護者への丁寧な対応 生徒指導総合連携推進事業の継続・発展{小中高連携の充実、地域ネットワーク（民生児童委員、保護司等）と連携した生徒指導の推進} 地域の教育力の活用{ボランティア活動、職場体験、福祉体験、伝統文化体験学習、選択教科の外部講師（美術・家庭）} 学校評価の工夫改善 	<p>○保護者や関係団体などと連携を深め、信頼される学校づくりを前進させることができた。</p> <p>△ホームページなどを活用した定期的な情報発信を進めていく。</p> <p>△保護者アンケートの実施に、より多くの保護者の協力を得る方法を検討する。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立を基盤とした授業改善による基礎学力の定着 生徒の自律的な力、支え合う力の育成 粘り強くやり遂げる力の育成 「生徒指導総合連携推進事業（学習指導・生徒指導・教育相談）」の継続・充実 		

平成 20 年度 学校評価報告(中学校)

学校名〔京丹後市立橋中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○基礎基本の学力を身に付け、目標を持って取り組む生徒の育成 ○思いやりの心を身に付けた生徒の育成		○組織的な学校経営が定着し、学校運営がスムーズに実現できた。 △生活面では安定しながら、学力面で伸ばしきれなかった。	○学力の向上 ○「豊かな心」「主体的に生きる能力」の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○「京の子ども夢、未来校」学力向上の発表に向けた、研修会の充実と実践の強化 ○家庭学習の定着に向けた推進 ○学年目標達成に向けた取組 1年―授業規律と基礎学力の定着 2年―学習意欲の向上と学習習慣の定着 3年―学力の向上と進路を目指した計画的・意欲的な学習	①「読解力」を意識した授業改善の推進 ・月1回以上の授業参観と研修会を実施する。 ・月1回の公開授業週間の設定をし、他の教師から学ぶ取組。 ②「英語」・「数学」における、少人数授業の効果的授業の推進 ・最低限単元毎の教科部会によるTT・習熟度授業の研修を行う。 ③「家庭学習」の定着に向けた研修の推進 ・教科全体で宿題や週末課題の調整・研修を行う。 ④「授業に集中できる」生徒の育成に向けた研修の推進 ・「京の子ども夢、未来校」研修の中で、授業改善を図る取組の推進を図る。	○「京の子ども夢、未来校」の発表に向け、全教職員が一丸となり、「読解力」向上に向けた取組ができた。 ○少人数授業の効果的授業の推進についても、教科部会が常時行われ、組織的・計画的な授業展開を推進できた。 △家庭学習の定着については、各教科の連携の弱さが有り、家庭学習時間の増加、定着には至らなかった。今後保護者との連携の中で定着に向けた推進が課題となる。
生徒指導	○生徒相互のより良い人間関係の育成 ○不登校生徒の未然防止を図る ○ネット関連問題事象の未然防止を図る	① 組織的な生徒指導を行う。 ② 年度当初・長期休業中に向けて配布する生活の決まり等の指導の徹底を図る。 ③ 問題事象に対する早期発見・早期指導を図る。 ④ ネット問題に対する生徒・教職員・保護者の研修会を実施する。	○定期的に生徒指導部会を開催し、全職員に問題事象の徹底が図れた。 ○不登校生徒についても年間を通しゼロ件を維持した。 ○ネット犯罪に対する学習会を生徒・保護者別に開催し、意識の高揚につながった。 △正しい情報機器の活用については、まだまだモラル面での指導が必要である。

健康安全	<p>○生徒が主体的に健康で安全な生活を創り出す態度を育成する。</p> <p>○食についての健康教育の推進</p>	<p>① 給食時の衛生面での再点検と改善を図る。</p> <p>② 食育に対する学習を推進する。</p>	<p>○給食時の音楽や給食センターの「いただきます」の放送は食育教育に多いに役立った。</p> <p>△衛生面ではまだまだ不十分な面があり、今後改善していく必要がある。</p>
進路指導	<p>○3年間を見通した計画的・系統的な進路指導の充実を図る</p> <p>○自己の特性を知り、自己を生かす能力を育てる。</p> <p>○職場体験・福祉体験を通して、生き方・在り方を考えさせる。</p>	<p>① 進路実現に向けた3年間を見通した系統的な進路学習の推進。</p> <p>② 高校説明会の有効な立案を研修する。</p> <p>③ 進路希望実現に向けたデータの收拾と緻密な分析をする。</p> <p>④ 三者面談の充実を図る。</p> <p>⑤ オープンキャンパス等の積極的な参加の奨励を行う。」</p>	<p>○3年間の系統的進路学習の改善ができた。</p> <p>○各高校説明会に保護者の参加も多く、意義ある説明会が開催できた。</p> <p>○今年度は市中研進路部会のデータの豊富にいただくことができ、進路指導上大いに活用することができた。</p> <p>△競争率が厳しい状況の中で、低学力生徒の学校選択に対し研究が必要である。</p>
特別支援学級	<p>○支援学級生徒の発達課題を全職員が把握し、個々の指導計画に基づく、指導内容の改善を図る。</p>	<p>① 研修会の実施</p> <p>② 可能な限り、TT授業を実践し、きめ細かな指導にあたる。</p> <p>③ 保護者に対する正しい理解を図り、連携した指導にあたる。</p>	<p>○夏休み中の研修会の開催と月1回の職員会議での報告により、全職員の一致した指導体制がとれた。</p> <p>○今年度は多くの教科でTTの体制がとれ、細かな指導ができた。</p> <p>△教科指導も大切だが、社会性を培う指導も研究・実践する必要がある。</p>
保護者・地域との連携	<p>○地域・保護者・学校が一体となって、生徒を守り、育てていく体制づくりの実現</p>	<p>○ 開かれた学校づくり</p> <p>① 地域行事への積極的参加</p> <p>② 学校公開における、地域の積極的な参加を促す取り組みの推進</p> <p>③ 学校評議員・PTA 役員との連携強化</p>	<p>○地域行事に対する参加体制は強く、合同行事も組まれているため、多くの参加が実現した。</p> <p>△広報活動の弱さがあり、新しく始めた「作品展」等の地域参加は非常に少なかった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○ 少人数授業を更に、充実しきめ細かな指導と共に学力向上を図る。</p> <p>○ 支援学級生徒に対し、可能なかぎり複数配置の授業形態を取り、基礎基本の定着を図ると共に、社会性や生きる力を身に付ける指導をする。</p> <p>○ 地域参加の行事や作品展等の工夫を考える。</p>		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(中学校)

学校名〔京丹後市立間人中学校〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
1 確かな学力を身につける。 2 豊かな心の育成をめざす。	1 学習に対する意欲や関心をもたせること 2 問題事象を教訓にした指導を行うこと	1 落ち着いた学習環境づくりに力を注ぐ。 （１）学習に向かう構え（意欲） （２）授業規律の向上、魅力ある授業 2 生活上のマナー、ルール等を遵守させる。 （１）挨拶励行、服装、身なりに気を配る。 （２）ヘルメットの着用	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	学習意欲を喚起させる。 基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝読書 ・ ドリル学習の定着 ・ 全校補充学習（数学・英語） ・ 小テストによる繰り返し学習 ・ 週末課題の提出指導 ・ 長期休暇中の学習会 	○ 学習の意義を教え伝える機会を計画的に設定したことが奏功し、授業規律が徐々に高まりを見せた。 △ 学んだことを復習し、定着することをめざし継続した取り組みをしていく必要がある。
生徒指導	生活上のルールやマナーを身につけ思いやりの心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活アンケート実施・分析後二者面談の実施 ・ 集会活動 ・ 人権学習 ・ 生徒指導課題交流 	○ アンケートや二者面談等から生徒の実態を把握し迅速な対応ができるようになってきた。 △ 内面に迫る指導に心がけ、さらに生徒と教師の良好な信頼関係を築くことである。
健康安全	心身ともに健康で安全に過ごす生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健教育（健康管理、性教育、薬物指導）交通マナー ・ 登下校の指導 ・ 日々の給食指導 ・ 美化指導 ・ 避難訓練 	○ 保健室の有益な活用ができた。（怪我の対応のみならず、生徒の思いに共感しながら指導を継続した） ○ ヘルメットの着用、二列並進禁止については、適宜注意し続け、街頭指導を強化した。 △ 日々の美化活動については、清掃場所の検討、掃除の仕方について徹底していく必要がある。

進路指導	望ましい職業観や勤労観を身につけ進路を拓く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奉仕体験活動 ・ 福祉体験 ・ 職場体験 ・ 高等学校体験セミナーへの参加 ・ 進路学習 ・ 進路講話（社会人） 	<p>○ 学校では体験できない活動を通じて、自分自身の近い将来の構想をしていくことに大いに役立っている。</p> <p>△ 体験だけに終わらず、体験から学ぶ指導を充実させる必要がある。</p>
③ 教育実践 モデル校 の取組	学習や学校生活全般の中で表現する力を身につけ、コミュニケーション能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科で表現する機会を生徒の活動に取り入れた授業の展開 ・ 部活動 ・ 体験的な活動等を通じて思いのほどを相手に明瞭に伝えることを意識した指導 	<p>○ 社会生活に欠かせない挨拶、言葉遣い等の大切さを実感し、ふさわしい言動ができる生徒が出てきた。</p> <p>○ 授業中に生徒間で教えあう光景が見られるようになった。</p>
保護者・ 地域との 連携	教育活動の理解、協力のもと生徒の健全な発達を願う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開の設定 ・ 授業参観 ・ 参観後の評価・懇談（民生委員・保護司） ・ 学校だよりの発行 ・ 懇談会 	○ 授業や部活動の参観や懇談会、学校だより・学級通信等で生徒の活動状況を定期的に伝え、学校の教育方針についても一定の理解をしていただいた。
次年度に 向けた 改善の 方向性	<p>学習規律を向上させ、学習しやすい環境づくりに専心する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級内の良好な仲間関係の構築 ・ 魅力ある授業展開（意欲を喚起させる授業づくり） <p>体験活動を通じて心の教育をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやりのある言動（礼儀、マナーなど）を身につける。 ・ 福祉体験や職場体験、奉仕的な活動野の計画と活用 		

平成20年度 学校評価報告(中学校)

学校名〔京丹後市立宇川中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
(1) 生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動を推進する。 (2) 積極的な生徒指導及び協働体制の継続を図る。 (3) 道徳の時間を充実させるとともに、体験活動を通して豊かな心を育む。 (4) 教育活動全体を通して、健康や体力の向上に努める。 (5) 家庭・地域社会と一体となって、信頼される学校づくりを推進する。	(1) 本校生徒の学力課題や、授業改善策を全教職員が共通認識した。家庭学習習慣の確立に課題が残る。 (2) 生徒指導部会の定例化、主任を中心とした指導体制が確立でき、生徒の変化に対応した。教職員の危機意識の高揚が課題である。 (3) 「道徳の時間」の指導に、「明日へのとびら」など、年間指導計画に位置づけることが課題である。 (4) SCや心の教室相談員を効果的に活用するなど、教育相談により落ち着きを見せた生徒もある。 (5) 学校教育の公開は適切に実施し、学校行事のアンケート調査等から、学校の信頼回復が出来つつある。	(1) 生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動の推進【京の子ども夢・未来校指定研究】 (2) 積極的な生徒指導及び協働体制の継続 (3) 豊かな人間性を育む「心の教育」の充実 (4) 地域に開かれ、信頼される学校づくりの継続 (5) 教育活動全体を通して、健康や体力の向上 (6) 特別支援教育の充実 (7) 校種間連携の更なる推進

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	生徒一人一人に確かな学力の定着を図る教育活動の推進	(1) 指導方法の工夫・改善の研究を充実させた。 ア 6つの視点に基づく授業の振り返りメモの作成 イ 授業で「目標」パネルの活用 ウ 「言語の力」の育成に向けた全教科の言語活動の研究「ホワイトボード」の活用 エ グループ分け(理数系、文化系、技能系)による授業研究 事前授業研究、AT(アシスタントティーチャー) オ 全教科で授業研究会の実施 (2) 家庭学習の習慣化を図るため指導の工夫を行った。 ア 生活リズムの改善 イ 家庭学習習慣化の取組(リストアップ & ペイント方式、「なぜ学ぶ」) ウ 保護者への啓発と支援(生活リズムアンケートの結果から) エ 全校学習会 (3) 学力実態・指導方法等について、小中連携の強化を図った。	○ 全ての教員で研究授業を実施し、基礎基本の定着を図るための指導方法の研究が充実した。 ○ アンケート調査から、言語活動の推進のための「ホワイトボード」の活用で97%の生徒が授業理解に役立ったと感じた。また、54%の生徒が家庭学習の時間が増えたと回答した。 △ 全ての教科で「言語の力」育成に向けたホワイトボードの活用等、更に研究を深めることが課題である。 △ 将来の目標を持たせ、学習意欲の更なる向上に向けたキャリア教育の充実が課題である。

生徒指導	積極的な生徒指導及び協働体制の継続	<ul style="list-style-type: none"> (1) 週1回生徒指導部会で生徒の実態や課題把握、方針を作成した。 (2) 全教職員による協働指導体制のもとで指導を推進した。 (3) 9年間をとおして同一の小集団であるための、人間関係の固定化について改善を図った。 (4) 生徒会活動の活性化を図った。(隔週の生徒会活動・学級活動日) (5) 教職員の危機意識の高揚について常に指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部会の定例化、主任を中心とした指導体制が充実し、生徒の変化に対応できた。 ○ 3年生を中心とした生徒会活動により、自らの生活改善の意識が高まった。 △ 教職員の更なる危機意識の高揚が課題である。
健康安全	学校保健、学校安全、学校給食などを中心に各教科等との関連を図り組織的な取組	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に自分の生命は自分で守る力を育てるため、年3回の避難訓練(火災、地震、不審者対応)を実施し、月1回下校指導を行った。 (2) 登下校の安全・安心のため、通学路の変更を行った。 (3) 月1回安全点検を実施し、危険箇所の把握と早急な改善を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返し実施している避難訓練で、身を守る行動マニュアルは身についてきた。 △ 普段の不審者や交通事故等から身を守る意識には課題が残る。
進路指導	進路希望の実現を目指す学力の充実と進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> (1) CRTや広域テスト等の実施、BS等補充指導の充実を図った。 (2) 系統的な進路学習の工夫を行った。 (3) 面談や多目的教室の進路コーナー等の活用により、進路相談の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の進路希望が実現できた。
研修(資質向上の取組)	今日子ども夢・未来校「主体的な学習意欲の向上」に向けた研修	<ul style="list-style-type: none"> (1) 先進校視察・研究発表会で研修を深め、伝達講習を行った。維孝館中学校、和田中学校、橘中学校、横浜国立大学附属中学校 (2) 新学習指導要領、「質の高い学力を求めて」、「質の高い学力を目指す授業と評価」、平成19年度久美浜中学校の研究を研修した。 (3) 指導主事要請訪問を2回実施し、指定研究の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京の子ども夢・未来校の研究指定を受けたことが契機となり、多くの研修が出来た。 ○ 研究主任をはじめ、教員の指導方法の研究が充実した。 △ 繰り返し、資質向上に向けた研修を深めることが大切である。
保護者・地域との連携	教育活動の積極的な公開、並びに家庭・地域社会との積極的な連携強化	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本校の教育活動・学校運営の理解を得るため、PTA総会や学校だより等で紹介した。 (2) 月1回「学校公開日」を設定し、学校行事や授業の様子を保護者・地域に公開した。 (3) 学校行事や学校公開、また年2回、保護者や生徒に「アンケート調査」を実施し、寄せられた意見を学校改善に活用した。 (4) PTA活動「家庭教育研修会」を年2回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育の公開は適切に出来た。 ○ 学校行事のアンケート調査等から、学校の信頼回復が出来つつある。 ○ PTA家庭教育研修会は好評であった。 △ 行事のない月に実施している学校公開日の参観を工夫することが課題である。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学力充実・向上に向け、「主体的な学習意欲の向上」を主題とした「京の子ども夢・未来校」の研究発表会を成功させる。(11月11日) (2) 校長主導の組織的な学校経営を充実・発展させるために、全教職員の主体的な教育推進と、教頭・教務主任を始めとした分掌主任の企画力・実践力の向上を図る。 		

平成20年度 学校評価報告(中学校)

学校名 [京丹後市立弥栄中学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 一人一人の生徒に確かな学力の定着を図る教育活動の推進</p> <p>2 心の教育の充実を図り、心を揺さぶり、心を鍛え、主体性をはぐくむ教育活動の推進</p> <p>3 自立への歩みを理解し、深い信頼と強い絆のもとに進める不登校の未然防止と解消</p> <p>4 安心・安全で開き、信頼される学校づくりの推進</p>	<p>1 学力 ○学力は概ね定着 △教科指導における特別支援 △内発的な表現力の育成</p> <p>2 心の教育 ○生徒は落ち着き、目立った人権問題やいじめ事象は見られない。 △年間を通じた道徳時間の授業改善 △文化芸術鑑賞の継続実施</p> <p>3 不登校 ○不登校の減少および解消 △スクールカウンセラーによる計画的なスクールカウンセリングの拡大</p> <p>4 安心・安全、開かれた学校 ○弥栄っ子ふれあいフォーラムの開催 △不登校の未然防止および特別支援に関する小中連携 △定例学校公開の周知と参加者数の増加</p>	<p>1 学力 (1) 個に応じた指導など指導方法の工夫改善と指導体制の充実 (2) 基礎的・基本的な内容の徹底と学力の充実・向上 (3) 生徒が充実感を抱く魅力的な授業づくりの構築</p> <p>2 心の教育 (1) 心を耕し、心を鍛える道徳教育の充実 (2) 思いやり、やさしさをはぐくみ、個性や価値観の違いを認めることのできる人権教育の充実 (3) 「生きる力」をはぐくむ「総合的な学習の時間」の創意工夫</p> <p>3 不登校 (1) 生徒の実態把握と組織的な指導体制の確立 (2) スクール・カウンセラーとの積極的な連携と活用</p> <p>4 安心・安全で開き、信頼される学校づくりの推進 (1) 「開かれた学校づくり」に向け、教育活動・学校運営などの積極的な公開 (2) 豊かな体験活動の推進に向けての地域社会との連携と教育力の活用 (3) 危機管理体制の整備と充実</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>(1) 個に応じた指導など指導方法の工夫改善と指導体制の充実</p> <p>(2) 基礎的・基本的な内容の徹底と学力の充実・向上</p> <p>(3) 生徒が充実感を抱く魅力的な授業づくりの構築</p> <p>(4) 心の教育の充実 ア 心を耕し、心を鍛える道徳教育の充実 イ 思いやり、やさしさをはぐくみ、個性や価値観の違いを認めることのできる人権教育の充実 ウ 「生きる力」をはぐくむ「総合的な学習の時間」の創意工夫</p>	<p>(1) ア 一人一人の学力実態を把握し、課題を明確にしている。 イ 生徒と教師の信頼関係作りを進め、学力向上を図っている。 ウ 授業改善に関わる研修会を実施し、指導力の充実に努めている。</p> <p>(2) ア 学習の形態や学習内容を工夫し、基礎学力の定着を図る。 イ 長期休業中の学習会に意欲的に参加させ、学力の定着・向上を図る。 ウ 読書力向上への指導を通して、豊かな表現力につなげている。 エ 学力診断テスト・定期テスト等の分析を授業に生かしている。 オ 全校学習を生徒会の取組と連動させ、学習意欲を喚起している。</p> <p>(3) ア 形態、発問を工夫することで、生徒が主体的に活動できるように授業改善を行っている。</p> <p>(4)心の教育の充実 ア 楽しく、豊かな学校生活を送るための人権意識を高める指導を行っている。 イ 人権問題は速やかに対応し、保護者との連携のもとに指導を進めている。 ウ 体験活動等を通じて生き方に迫る指導を行っている。 生徒同士の意見を交流しながら、互いを認め合い、自らの生き方を見つけてさせる指導を行っている。</p>	<p>○目標基準準拠学力検査、全国学力・学習調査、京都府中学校学力診断テスト等の結果によれば、概ね、学力は定着している。</p> <p>△道徳の時間の工夫・改善 △通常の教科指導時間等における特別支援 △読書指導の教育課程内での位置付けの明確化と指導の充実 △授業・集会・発表会等における発言・発表等、生徒の主体的な表現力の育成</p>

生徒指導	(1) 生徒の実態把握と組織的な指導体制の確立 (2) スクール・カウンセラーとの積極的な連携と活用	(1) ア 生徒指導部および教育相談部で生徒全体の出欠の動向を把握し、指導の課題を明らかにして指導を進めている。 (2) ア 便りの発行、全生徒対象のカウンセリング講座等によって、教育相談についての理解を深め、啓発している。 イ カウンセリングを計画的に働きかけ、実施している。	○生徒は落ち着き、目立った人権問題やいじめ事象は見られない。 ○2学期に出現した不登校傾向生徒は、通常登校まで回復していないが、午前・午後共に別室登校できるようになった。 △1学期から予兆のあった生徒が、2学期から不登校傾向を示すようになった。 △拠点校スクールカウンセラーの活用
健康安全	(1) 危機管理体制の整備と充実	ア 教職員の危機管理への理解を深め、対応力を高めるために、危機管理マニュアルの研修会等を行う。 イ 毎月、校内安全点検を実施し、営繕を行う。 ウ 通学路の確認、毎日の登校指導や定期的な下校指導により、登下校の安全確保の指導を行う。	○校内定例安全点検を実施 ○避難訓練等、安全指導の実施 △通常時の自転車登下校の交通マナー指導の徹底
進路指導	(1) 希望進路実現に向けて、生徒の学力の充実向上を図る。 (2) 職場体験などの活動から、正しい職業観や勤労意欲を身につけさせる。	(1) ア 年度当初から計画的に二者・三者による進路相談を実施し、課題を明確にして、学習指導を行う。 (2) ア 学級指導および総合的な学習の時間の指導を充実させる。	○希望進路の実現 ○職場訪問・職場体験、進路指導等の計画的な実施 ○家庭と連携した早期からの個に応じた進路指導
ア特別支援教育	(1) 個に応じた指導など指導方法の工夫改善と指導体制の充実	ア 個の学力実態に応じ、特別な支援等を工夫する。 イ 特別な支援の必要な生徒については、アセスメント票や個別の指導計画を作成し、教職員、関係機関との共通認識のもとに、機能的な対応を図っている。	○チェックシートにより発達に課題を持つ生徒の調査を実施 △通常の教科指導時間等における特別支援
保護者・地域との連携	(1) 「開かれた学校づくり」に向け、教育活動・学校運営などの積極的な公開 (2) 豊かな体験活動の推進に向けての地域社会との連携と教育力の活用	(1) ア 月に1度、ホームページの更新を行う。 イ 毎月の学校公開、「学校へ19日（行く日）」を工夫して、参加者を増やす。 ウ 小中連携を進め、生徒指導、学力向上の課題を共有化し、行動連携を行う。 エ 本校の課題や目指す教育の方向性を明らかにし、保護者、地域社会に提示する。 (2) ア 地域社会とのふれあいを大切にした行事に参加し、中学生としての成長をアピールする。 イ 小中合同のふれあい学習発表会「弥栄っ子ふれあいフォーラム」を開催する。	○ホームページを新規に開設し、更新している。 ○弥栄っ子ふれあいフォーラムに参加した。 ○新たに本校作品展を開催した。大好評で、本校の教育活動への理解を深めた。 △行事は参観が多いものの定例学校公開への参加が少ない。ホームページの公開・更新と併せて学校への関心を高める工夫が必要
次年度に向けた改善の方向性	1 学力の定着と向上 2 保護者・地域との連携および道徳時間の充実による心の教育の推進（校訓4 愛郷の指導を推進） 3 不登校の未然発生防止と解消の実践 4 保護者・地域と連携した安全・安心な学校、開かれた学校づくりの推進		

平成 20 年度 学校評価報告(中学校)

学校名 [京丹後市立久美浜中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「学力の充実」「人間としてのあり方・生き方の指導」について具体的な方針を示し、組織的に指導することで信頼される学校づくりをめざす。		<p>(成果) 問題事象に対して生徒指導部を中心に原則的に対応した結果、生徒の言動が前向きになった。</p> <p>(課題) 不登校(気味)生徒の数が多く、保護者理解を得ながら見通しをもって指導することができなかった。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校体制の確立 2 生徒指導の充実 3 学習指導の充実 4 部活動の充実 5 家庭・地域との連携
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ol style="list-style-type: none"> (1) 指導方法の工夫・改善 (2) 国語力の育成 (3) 教育課程外の取組の充実 (4) 評価に係る研修の充実 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 研究授業や公開授業を行い、指導方法の検証を行う。 (2) 学力テスト等の分析を行い、評価・評定との整合性を検証する。 (3) 「聞く・話す・書くこと」を学校全体の活動や各教科の中で指導し、国語力に還元する。 (4) 放課後や長期休業中に補充学習を行い、学習に遅れが見られる生徒の指導を充実する。 	<p>○授業研等、持ち方を工夫することで意見交換が活発になった。</p> <p>△教科のプロとしての自覚と授業改善への意欲、その持たせ方に課題がある。</p> <p>△観点別評価Cの生徒への手だてを意識した授業づくりを意識する。</p> <p>△協同学習の取組方を工夫し、学習への意欲を高める。</p>
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> (1) 規範意識の向上 (2) 生徒会活動の活性化 (3) 認め合える学級経営 (4) 教育相談活動の充実 (5) SCや相談関係機関と一体となった指導・支援 	<ol style="list-style-type: none"> (1) ベル着指導、下校指導を徹底し、規律に対する意識を高めるとともに授業規律を高める指導を行う。 (2) あいさつや身だしなみ等、基本的なマナーを身に付けさせる。 (3) 生徒会専門部・委員会活動を活性化させる。 (4) 学級委員や班長の指導を充実させ、リーダーを育成する。 (5) 行事や学級の取組を通して、自己存在感や充実感、共感関係をつくる。 (6) 課題意識の高揚、問題事象の早期把握のため、アンケート等を行う。 (7) 教育相談部会を定例化させ、生徒の的確な実態把握と指導方向の確認を行う。 (8) SCと担当者、該当担任が定期的に情報交流し、課題に対する共通認識を図る。 (9) ケース会議をもち、具体的な見立てや手立て等の方向性を確認し、対応を進める。 (10) 関係機関と連携し、生徒個々の課題に対して支援をすすめる。 	<p>○問題事象に対して生徒指導部を中心に組織的・原則的に対応できた。</p> <p>△教職員の危機管理意識が不十分である。(報告・連絡・相談の徹底)</p> <p>○不登校生徒への指導のあり方を検討・見直し、回復傾向に導くことができた。</p> <p>○教育相談部会を定例化し、SCからのアドバイスをもとに指導の方向性が明確になった。</p> <p>○定期的に不登校生徒の状況を全教職員に報告し、共通理解しながら指導できた。</p> <p>○校区の小中連携会議を学期1回開催し、次年度入学生の授業参観や担任との懇談を通して状況の事前把握ができた。</p> <p>△個々のケース会議が不十分で指導が適宜に行えなかった。</p>

健康安全	(1) 部活動の活性化 (2) 安心・安全の取組の充実	(1) 出欠記録をとり、無断欠席の生徒には担任・保護者に連絡する。 (2) 校内安全点検を徹底し、危険箇所は早期に修繕する。 (3) 不審者対応を含めた各種避難訓練を実施する。 (4) 危険箇所マップを作成し、PTAと連携して安全指導を行う。	○月1回の安全点検を実施し、危険箇所等を把握した。 ○全校生徒で登下校の危険箇所マップを作成し、PTAにも呼びかけることで安心・安全への意識を高めることができた。
進路指導	(1) 全体計画の見直しと充実 (2) キャリア教育の充実	(1) 従来の全体計画を生徒の実態を踏まえた上で点検・見直し、中学校3年間を見通した進路指導全体計画を作成する。 (2) 総合的な学習の時間と連携し、学年に応じた体験活動を通して進路を考えさせる。 (3) 職場体験学習を充実させる。	○既存の全体計画を見直し、久美中生の実態を踏まえた実践を行った。 △地域の人とのふれあいや意見交流の機会を増やし、2年生職場体験学習をさらに充実させる。
(A)特別支援教育	(1) 生活実態と学習実態の把握 (2) 実態交流と具体的な支援策の検討・提示	(1) 生活・学習アンケートを実施し、個々の生徒の実態を把握する。 (2) 生活や学習に課題のある生徒について気づきを交流する機会をもつ。(エピソード交流) (3) 特別支援部会で個々の生徒のニーズを把握・整理し、具体的な支援策を提示する。	○学習に課題のある生徒について気づきを交流し、実態を共通認識できた。 ○具体的な支援策が交流でき、教師間での刺激になった。 △具体的な支援策を実践・検証し、ニーズに応える。
保護者・地域との連携	(1) 家庭との連携強化 (2) 開かれた学校づくり (3) 小・中連携の充実	(1) 電話で済まらず家庭訪問をする。 (2) 生徒個々の家庭状況を把握する。 (3) 月に1回は、たよりを発行する。 (4) 学期に1回は、懇談会を開催する。 (5) 本校の取組内容や課題を知らせ、意見や協力を得る。 (6) 小・中連携を進め、生徒指導・学力向上の課題を共有化する。	○気になる家庭について来校を促し、より多くの教師が関わる体制を作った。 △適宜、生徒や学校の課題を保護者・地域にも知らせ、解決に向け協力を得る。
次年度に向けた改善の方向性	1 学校経営の柱 (1) 道徳教育をすべての学校教育活動の中心に据え、生徒の心を揺り動かすとともに一人一人の心に迫る指導を通して生きる力を身に付けさせる。 (2) 上記の目標を達成させるための活動や研修、実践を通して教師の意識変革を迫り、併せて指導力を身に付けさせる。 (3) 望ましい久美中生像を共通認識し、協働意識を高めながら目標達成を目指すことで、教師力を身に付けさせるとともに望ましい人材の育成を図る。 2 生徒指導 (1) 生徒指導部を中心に、より組織的な指導を目指すとともに、個々の教師の指導力を高める。 (2) 考え方やとらえ方について生徒の認識や生き方にせまる指導を具体的に実践する。 (3) 生徒会専門部・委員会活動を充実させ、生徒同士が課題意識を持ちながら生活する中で課題解決が図れるよう指導する。 (4) 教職員の危機管理意識を高める。(報告・連絡・相談の徹底) (5) 不登校の解消と未然防止に向け、気になる生徒のケース会議を開催する。(週1回・1事例、参加者～教育相談担当・SC・担任) 3 学習指導 (1) 授業研究を充実させ、授業改善への意識を高める。 ア 「文系・理系・芸術系会議」の充実～授業研の実施、授業・教材づくりのアイディア交流 (2) 協同学習(生徒同士の教え合い学習)の良さを生かし、取組内容を充実させる。 (3) 久美中生の実態を踏まえた学力向上プログラムを検証・改善する。 (4) 学習することへの意欲を引き出しながら効果的な家庭学習について考えさせる。(保護者への協力依頼も含む)		

平成 20 年 度 学 校 評 価 報 告(中学校)

学校名〔京丹後市立高龍中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>豊かな心で主体性に生き抜く生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで学習する生徒 ・ 命・今・仲間を大切にする生徒 ・ 粘り強く最後までやりきる生徒 <p>高龍中学校教育プロジェクトの推進により達成させる。</p>		<p>高龍中学校教育プロジェクトの推進により卒業生全員が第一志望の進学を実現できた。また、全校道徳などで心の教育の充実に努め、問題事象は極めて少なかった。</p> <p>新たな不登校生を出さないという目標を掲げたが、集団に入れず登校を渋る生徒の解消にはいたらなかった。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の充実 2 豊かな心の育成 3 「時間を守り、場を清め、礼を正す」教職員集団の確立
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	学力の充実・向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 主要5教科は必ず授業を公開し、その改善に努める 2 京都式少人数指導により数学科、英語科の学力を向上させる。 3 週程表の工夫による年間授業時数の確保（自習時間の解消） 4 朝読書、ドリル学習、振り返り学習、教え合い学習に毎日取り組む。 	<p>○少人数指導により基礎・基本は一定定着した。（診断テスト、CRT結果から）</p> <p>○どの教科においても振り返り学習や教え合い学習が定着し、生徒が積極的に学習に参加している。</p> <p>△発展的な指導に課題があった。</p>
生徒指導	不登校、登校渋りの解消 規範意識の高揚 挨拶の励行	<ol style="list-style-type: none"> 1 毎日の出欠管理の徹底（迅速な対応、対処） 2 生徒の小さな変化に敏感に気づき、迅速に対応できる体制の確立 3 「はあとほっとタイム」の充実に、より生徒に自信や存在感を持たせるとともに生徒の規範意識の高揚を図る。 	<p>○問題事象は年間を通して0であった。</p> <p>○本校の生徒はよく挨拶するとの評価を来校者や地域からも得ている。</p> <p>△登校渋りの生徒や集団に入れにくい生徒へのより効果的な指導、支援</p>
健康安全	登下校時の安全確保	<ol style="list-style-type: none"> 1 朝は保護者による登校指導、夕方は教職員による下校指導を1年を通して毎日実施 2 「夏みかんの日」の取り組みの中で自転車の安全走行についても徹底を図る。 	<p>○登下校時の事故は全くなかった。</p> <p>○生徒に命の大切さ、生きていることに感謝する姿勢や意識が定着しつつある。</p> <p>△大人の目が届かない場所ではまだ2列、3列並列走行する生徒がまだ存在する。</p>

進路指導	三年生全員が第一志望校への進学の実現	<p>1 広域テスト、学力テスト（過去問題）を定期的実施</p> <p>2 2学期以降、放課後を利用して補修や生徒同士の教え合い学習に取り組む。</p>	<p>○全員が第一希望の進路を実現させた。</p> <p>○職業調べ、職場体験学習等で、将来の職業について、一定の見通し、展望が開けた。</p>
道徳教育	豊かな心を育成	<p>1 全校道徳、学年道徳を毎月実施する。また、異年齢グループを構成しその中での意見交流の充実を図る。</p> <p>2 保護者、地域の人材を活用する講話を学期に1度は実施し、自己の生き方について考えさせる。</p> <p>3 毎月最終金曜日に「心のノート」活用の時間を設定し、自分の言動を振り返る等</p>	<p>○全校生徒が学年、性別関係なく仲が良く、仲間を大切にする意識が高い。</p> <p>○地域学習や奉仕活動の取り組みが定着してきた。</p> <p>△「心のノート」のより有効な活用を実践を通して検証したい。</p>
保護者・地域との連携	学校教育活動の積極的な発信 社会人講師の活用	<p>1 学校便りを毎月発行し、学校の取り組みを発信する。</p> <p>2 高龍中学校教育プロジェクト構想のリーフレットを各家庭、地域へ配布し、本校の目指す取り組みの理解に努める。</p> <p>3 全校道徳や総合的な学習の時間における講話を、できるだけ生徒の身近な地域の人材を活用し、より身近な学習となるよう努める。 また、地域調べにおいても活用する。</p> <p>4 夏季休業中に各地域において福祉活動に取り組む。</p> <p>5 学校内部評価を公開する。</p>	<p>○学校便りやリーフレットの配布、回覧により、本校の取り組みに保護者も地域も大変協力的である。</p> <p>○生徒の地域における生活や行動について、保護者のみならず地域の方々からも多くの情報を得ることができた。</p> <p>○学校内部評価を保護者や関係者に公開し、教育プロジェクトの取り組みに対し一定の評価を得ることができた。</p> <p>△学校評価をより広く公開し、多くの意見等を得ることで、今後の工夫改善につなげなければならない。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度当初の人事異動により、教員の半数以上が入れ替わったので、教育プロジェクトの工夫改善までには至らなかった。次年度は、本年度の総括に基づき、活動内容（総合的な学習など）を大幅に見直し、より深く充実した活動となるよう精選しなければならない。</p> <p>特に、より高い学力の定着を図るため、少人数指導を数学科、英語科だけでなく、国語科においても実施できるよう工夫したい。</p> <p>更に、教員一人一人の資質向上のため、積極的な研修会への参加と、校内研修の内容充実に努めなければならない。</p>		